

【漁況】

[マアジ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、昭和40年の53万トンにピークに減少傾向となり、昭和55年には5万4千トンとなりました。その後増加傾向に転じ、平成8年には33万トンに増加し、平成10年までは30トン台で推移しました。しかし、平成11年には大きく減少し21万1千トンとなり、平成14年は19万2千トン、平成15年は21万4千トンでした。

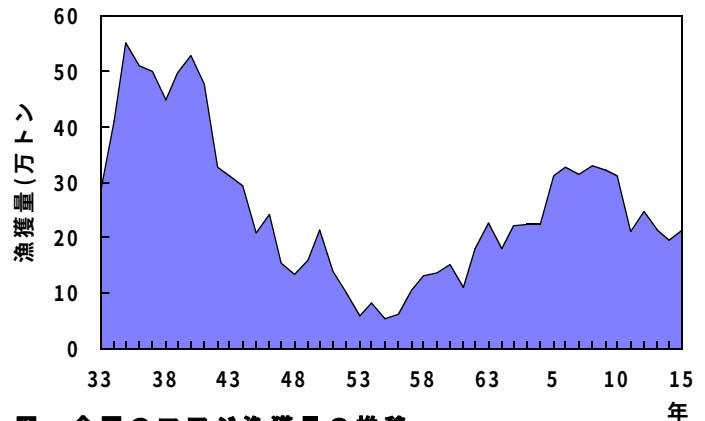


図 全国のマアジ漁獲量の推移

2. 平成16年10～12月期の漁況経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、長島沖～串木野沖及び甑東（10～12月）に、薩南海域では、佐多沖（10～12月）、馬毛島沖（10～12月）及び内之浦沖（12月）に漁場が形成されました。

4港計では、アジ仔・豆アジ（平成16年生まれ）主体に、中アジ（1・2歳魚）の漁獲もありました。全体で608トンの水揚げで、前年の142%及び平年の73%でした。

3. 平成17年1～3月期の見とおし

漁獲の主体は、豆アジ（1歳魚・平成16年生まれ）で、来遊量は前年並みで、平年を上回るでしょう。

（根 拠）

主対象となる豆アジ（1歳魚）の来遊量は、0歳魚としては平年を下回る水準でしたが、九州西岸や日向灘・豊後水道などで好調に推移していることや本県海域で12月に漁況が好転してきていることから、判断しました。

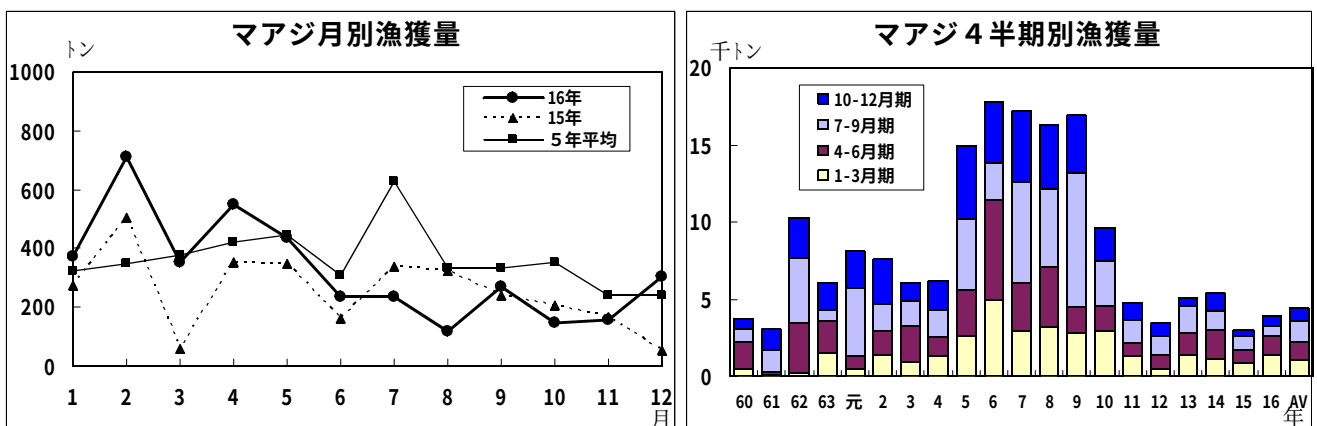


図 マアジ漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年（平成11～15年）の平均値、平成16年12月21日現在の水揚げ量を使用。

[サバ類]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

サバ類の漁獲量は、昭和53年の160万トン进行ピークにマサバ資源水準の低下により年々減少し、昭和57年には72万トンとなりました。その後は、ゴマサバの増加により大幅な漁獲量の減少は見られませんでした。昭和63年以降はゴマサバの資源水準も低下したため、サバ類の漁獲量は大きく減少し、平成3年には26万トンとなりました。平成9年には84万9千トンと増加しましたが、その後再び減少し、平成14年は27万9千トン、平成15年は34万4千トンでした。

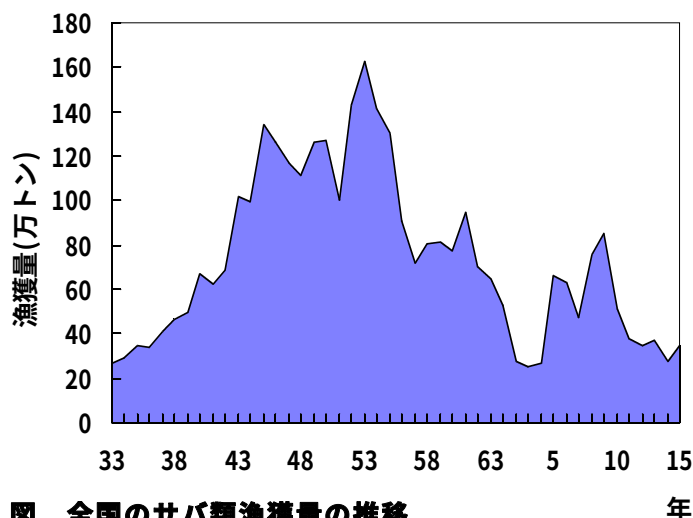


図 全国のサバ類漁獲量の推移

2. 平成16年10～12月期の漁況経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、阿久根沖～串木野沖及び甑東(10～12月)に、薩南海域ではゴマサバ大(2歳以上)が馬毛島沖(12月)、ゴマサバ豆・小(0歳魚・平成16年生まれ)が枕崎沖(10月)、湯瀬(11～12月)、内之浦沖(11月)に漁場が形成されました。

4港計では、2,251トンの水揚げで、前年の75%及び平年の151%でした。

3. 平成17年1～3月期の見とおし

漁獲の主体は、ゴマサバ大・中(2歳以上)で、ゴマサバ小(1歳魚・平成16年生まれ)の漁獲もあるでしょう。来遊量は好調であった前年並みで、平年を上回るでしょう。

(根 拠)

主対象となるゴマサバ大・中(2歳以上)太平洋系群の資源は比較的安定しており、今期も平年並みの来遊が期待できます。

また、ゴマサバ小(1歳魚)は、平成16年に0歳魚として太平洋海域(北薩～伊豆諸島)で好調に推移しており、今期も平年を上回る漁獲が期待できます。全体としては、好調であった前年並みで、平年を上回ると考えられます。

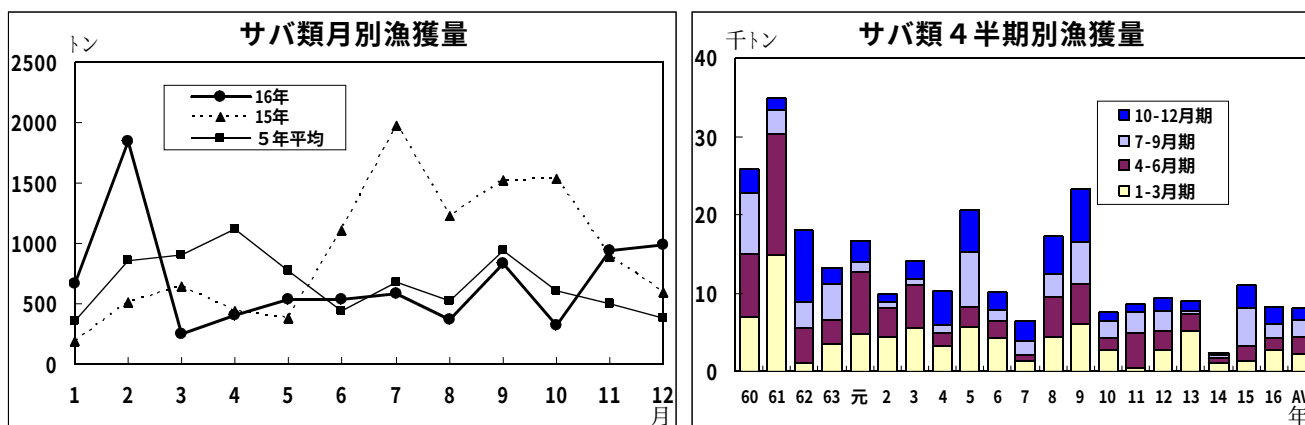


図 サバ類漁獲量変化(4港計)

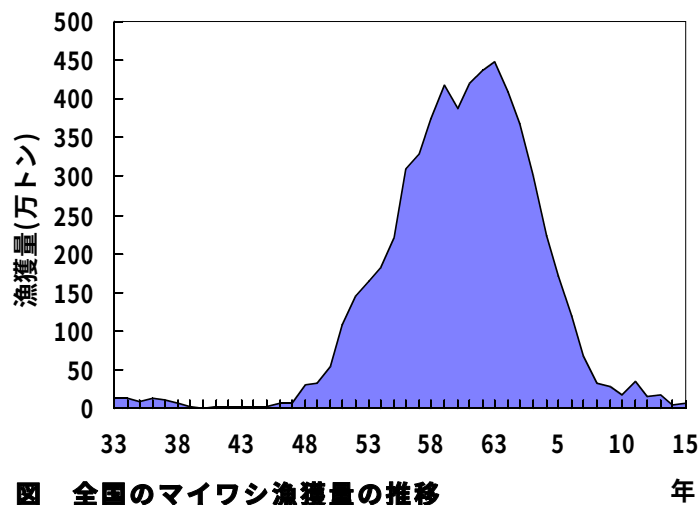
※平年値は過去5年(平成11～15年)の平均値、平成16年12月21日現在の水揚量を使用。

[マイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後、昭和48年頃から増加の傾向が見られ、昭和63年には449万トンまで増加しました。

しかし、平成元年から三陸沖を中心に漁獲量が減少し始め、その後もマイワシの若齢魚の減少等により、全国的に漁獲量は減少を続け、平成7年には66万トン、平成10年は16万7千トンとなりました。平成11年は35万1千トンとやや増加したものの、その後減少し平成15年は5万8千トンでした。



[ウルメイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は，昭和30年代後半から40年代前半にかけて3万トン前後で推移していましたが，昭和46年から54年まで5万トン前後で推移しました。昭和55年以降，漁獲量は減少し昭和60年には3万トンとなりましたが，その後，増減を繰り返しながら，増加傾向を示し，平成6年に6万8千トンとなりました。近年では再び減少傾向に転じ，平成9年は5万5千トン，平成15年は3万トンでした。

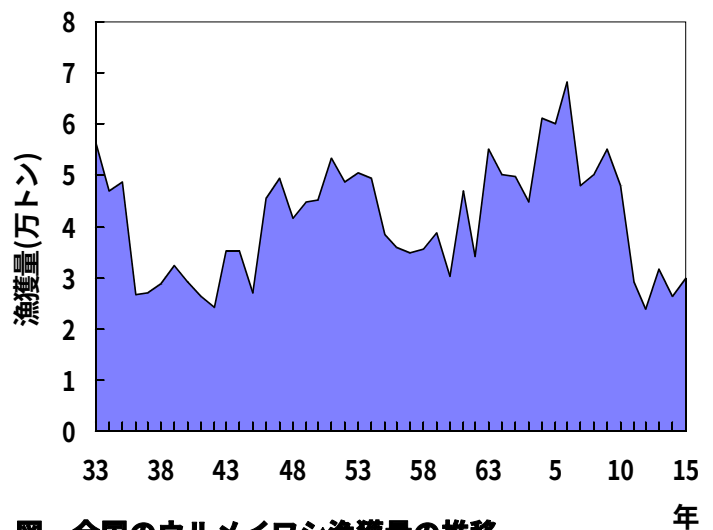


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

2. 平成16年10～12月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

薩摩半島南部の沿岸域で中～大羽（0歳魚・平成16年生まれ）主体のまとまった来遊がありました。

まき網4港計及び棒受網の合計では，399.3トンの水揚げで，前年の857%及び平年の109%でした。

3. 平成17年1～3月期の見とおし

漁獲の主体は中～大羽ウルメ（1歳魚・平成16年生まれ）で，来遊量は前年・平年並か上回るでしょう。

（根 拠）

前年の漁況経過から漁獲の主対象となる中～大羽ウルメ（1歳魚・平成16年生まれ）の発生状況は良好であったと考えられます。

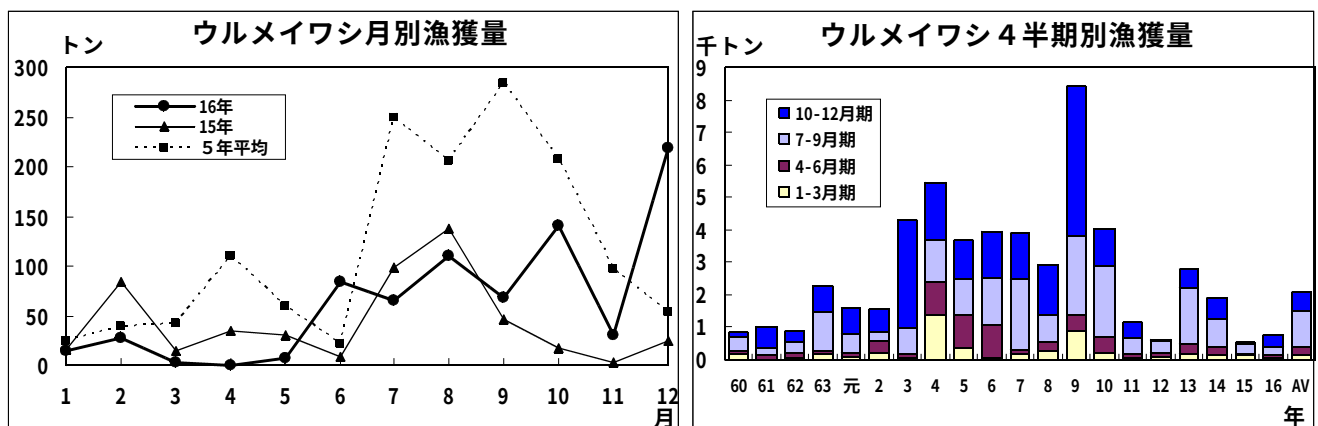


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成11～15年）の平均値，平成16年12月までの水揚げ量を使用。

[カタクチイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

カタクチイワシの漁獲量は、昭和48年まで30万トン台で変動していましたが、昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。その後、徐々に漁獲量は増加し昭和59年には22万トンとなりましたが、昭和62年には再び14万トンまで減少しました。昭和63年以降は大きく増減を繰り返し平成9年は23万3千トン、平成11年は48万トンとなりました。平成13年は、30万トンと一時的に減少しましたが、平成14年は再び増加し44万トン、平成15年は過去最高の51万7千トンでした。

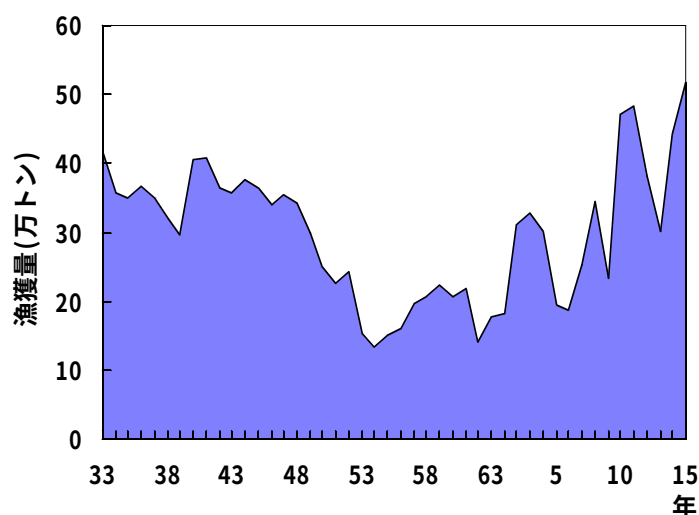


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

2. 平成16年10～12月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）のまき網及び棒受網】

北薩海域を中心に小中羽（0歳魚，H16年生まれ）主体の水揚げがありました。

まき網4港計及び棒受網の合計では82.9トンの水揚げで、前年の232%及び平年の76%でした。

3. 平成17年1～3月期の見とおし

漁獲の主体は中～大羽カタクチ（1歳魚・平成16年生まれ）で、来遊量は前年を上回り、平年並でしょう。

（根 拠）

前年のバッチ網漁業の漁況経過等から漁獲の主対象となる中～大羽カタクチ（1歳魚・平成16年生まれ）の発生状況は、良好であったと考えられます。

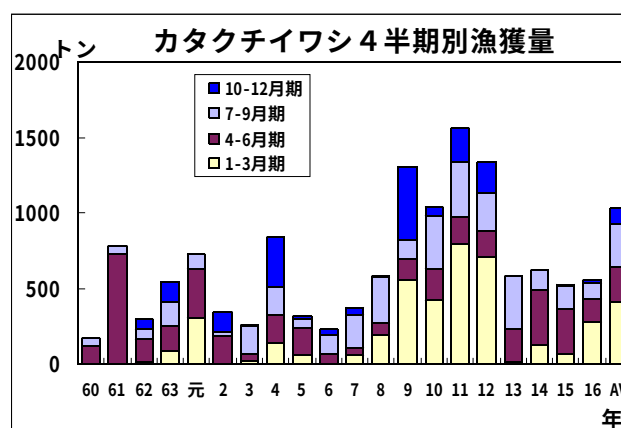
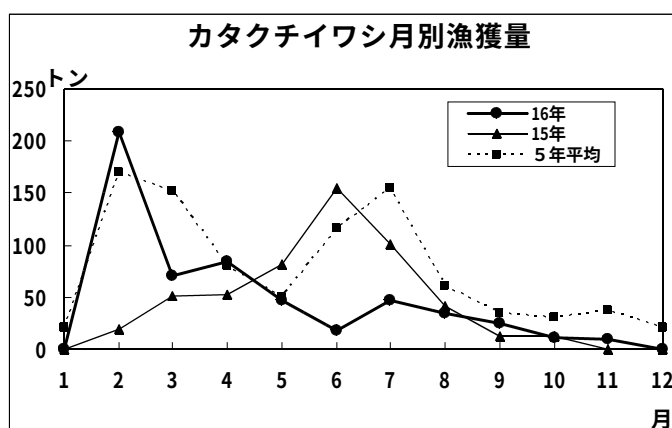


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成11～15年）の平均値，平成16年12月までの水揚げ量を使用。

【その他の魚種】

〈ムロアジ類（クサヤモロ、モロ、ムロアジ）（4港計）〉

1. 経年変化及び平成16年10～12月期の漁況経過

ムロアジ類の漁獲量は、平成2年の21,700トンピークに減少傾向を示し、平成12年は、昭和58年以降最低の1,819トンとなりました。平成13年以降は増加し、平成13年は3,224トン、平成14年は4,418トン、平成15年は3,369トンとなりました。

平成16年10～12月は、主に薩南海域で漁獲があり、期全体では1,179トンの水揚げで前年の81%及び平年の75%でした。

2. 平成17年1～3月期の見とおし

来遊量は前年・平年並みでしょう。

〈オアカムロ（4港計）〉

1. 経年変化及び平成16年10～12月期の漁況経過

オアカムロの漁獲量は、平成元年の5,300トンピークに減少し、平成6年には1,823トンとなりましたが、その後は増加傾向となり、平成10年は3,413トンでした。その後減少傾向となり、平成12年は2,483トン、平成13年は2,337トン、平成14年は1,885トン、平成15年は1,225トンでした。

平成16年10～12月は、主に薩南海域で漁獲があり、期全体では622トンの水揚げで、前年の362%及び平年の134%でした。

2. 平成16年10～12月期の見とおし

来遊量は前年・平年を上回るでしょう。

〈マルアジ（アオアジ）（4港計）〉

1. 経年変化及び平成16年10～12月期の漁況経過

マルアジの漁獲量は、平成2年以降低調に推移しましたが、平成7年には1,430トンに増加しましたが、再び減少し平成11年は639トンでした。平成12年以降は増加傾向を示し、平成12年は1,867トン、平成13年は1,603トン、平成14年は2,712トン、平成15年は3,150トンでした。

平成16年10～12月は、主に北薩海域で漁獲があり、期全体では71トンの水揚げで、前年の5%及び平年の8%でした。

2. 平成17年1～3月期の見とおし

漁獲の主体は、中・大（2歳以上）となるでしょう。

来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

（根拠）

例年主対象となる1・2歳魚（平成16年生まれ・平成15年産まれ）の来遊量が低水準であり、今期の漁況は低調に推移すると考えられます。

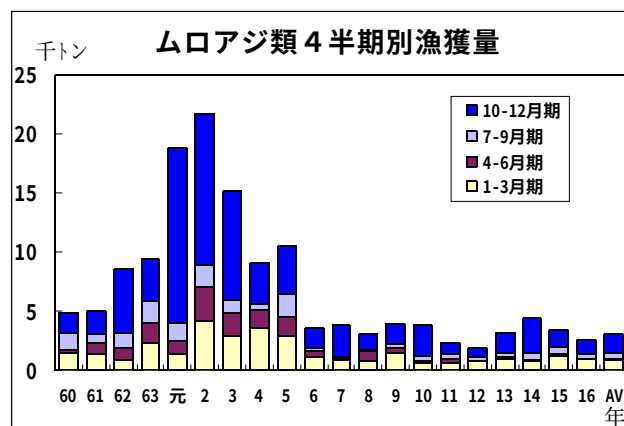
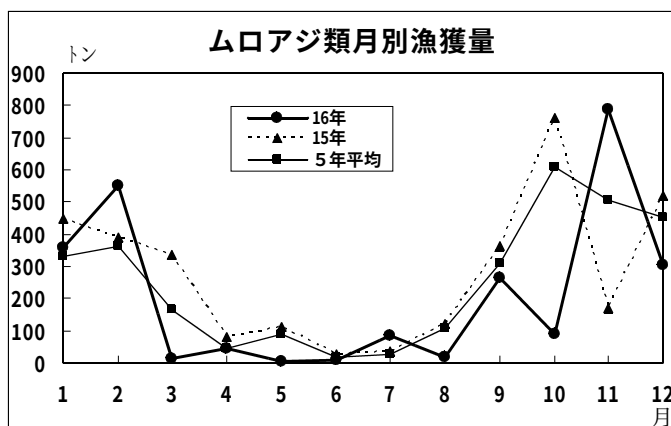


図 ムロアジ類漁獲量変化(4港計)

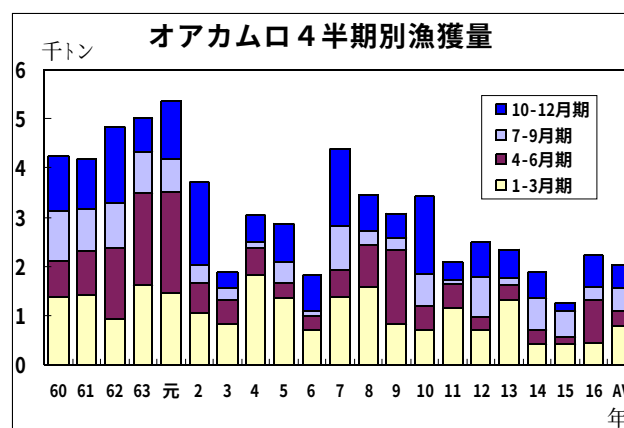
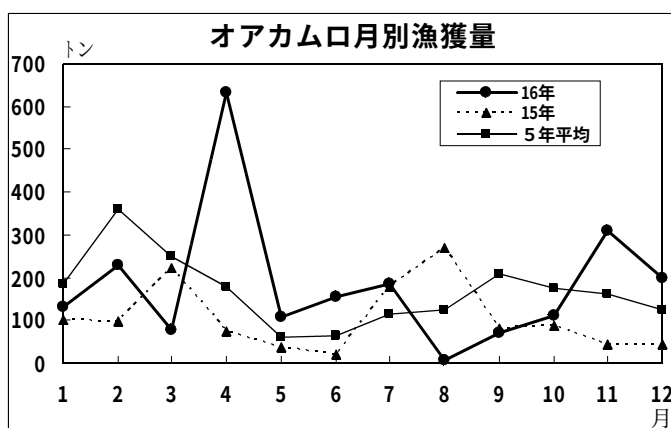


図 オアカム口漁獲量変化(4港計)

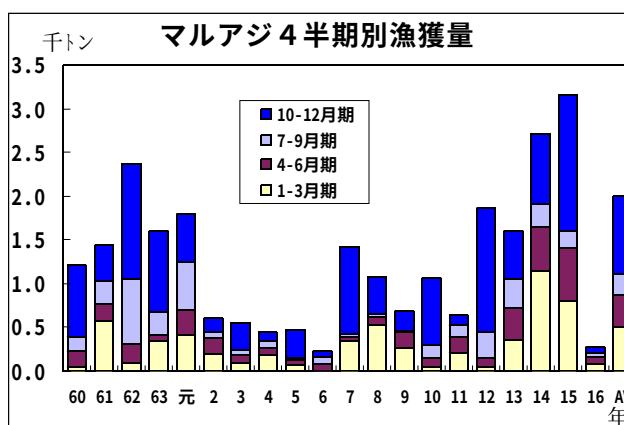
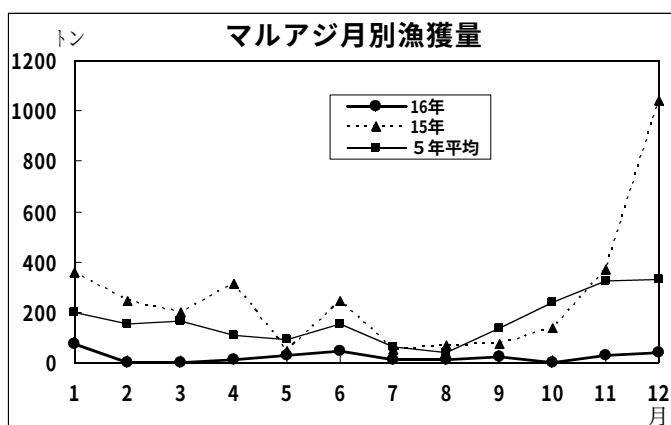


図 マルアジ (アオアジ) 漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年(平成11~15年)の平均値,平成16年12月21日現在の水揚量を使用。

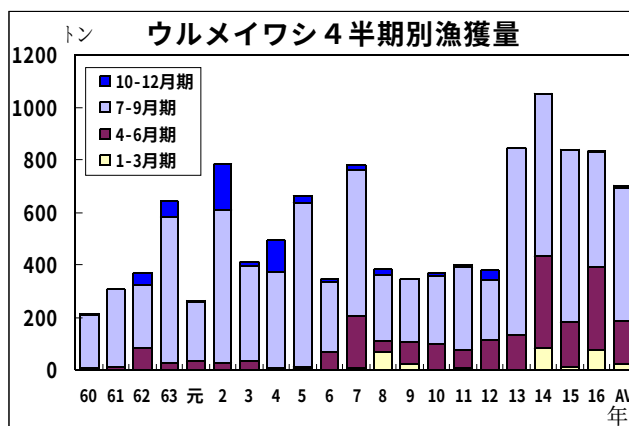
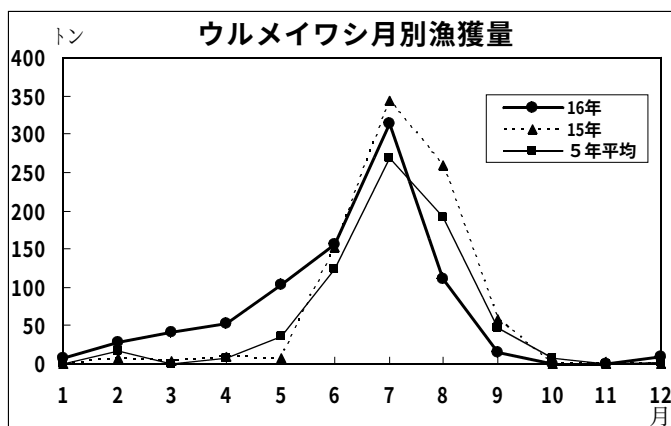


図 ウルメイワシ敷網漁獲量変化(阿久根港)

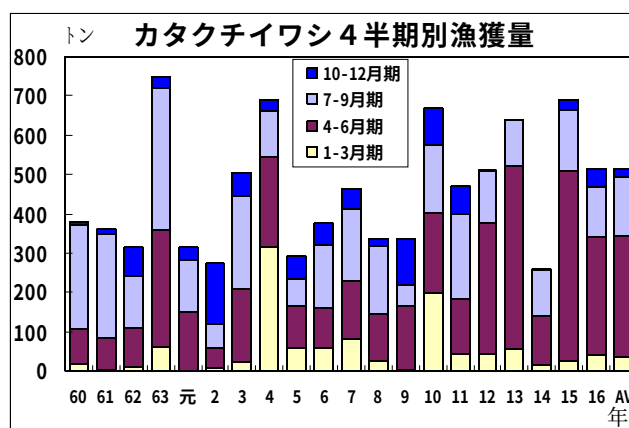
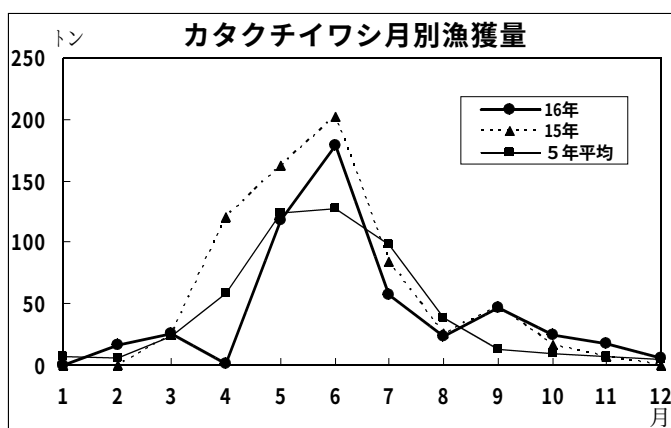


図 カタクチイワシ敷網漁獲量変化(阿久根港)

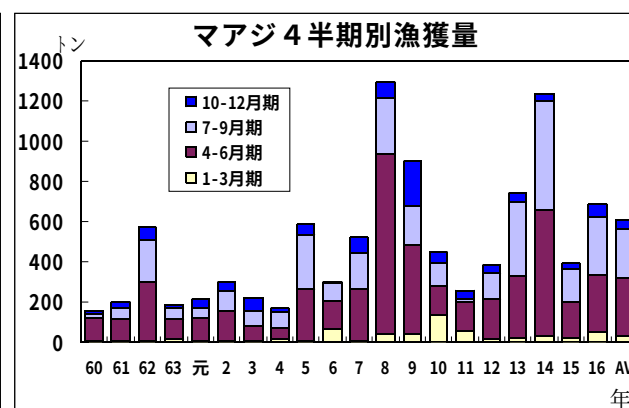
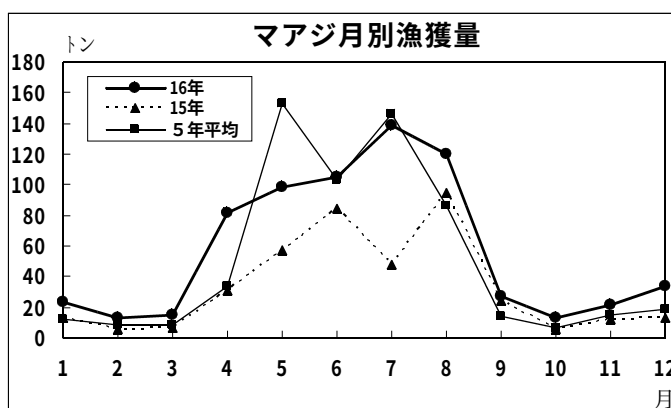


図 マアジ定置網漁獲量変化(内之浦港)

※ 平年値は過去5年（平成11～15年）の平均値，平成16年12月21日現在の水揚量を使用。

[シラス]

1. 経年経過及び平成16年10～11月期の漁況の経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では平成11年の6,060トン进行ピークに減少傾向を示しており、平成14年は1,106トン、平成15年は低調であった前年並みの937トンでした。志布志湾海域では平成12年の1,407トン进行ピークに減少傾向を示しており、平成14年は396トンまで減少したが、平成15年は842トンまで増加した。

今期の西薩海域では、カタクチイワシシラス主体で945トンの水揚げで、前年の326%、平年の168%でした。志布志湾海域では、カタクチシラス主体で320トンの水揚げで、前年の215%、平年の105%でした。

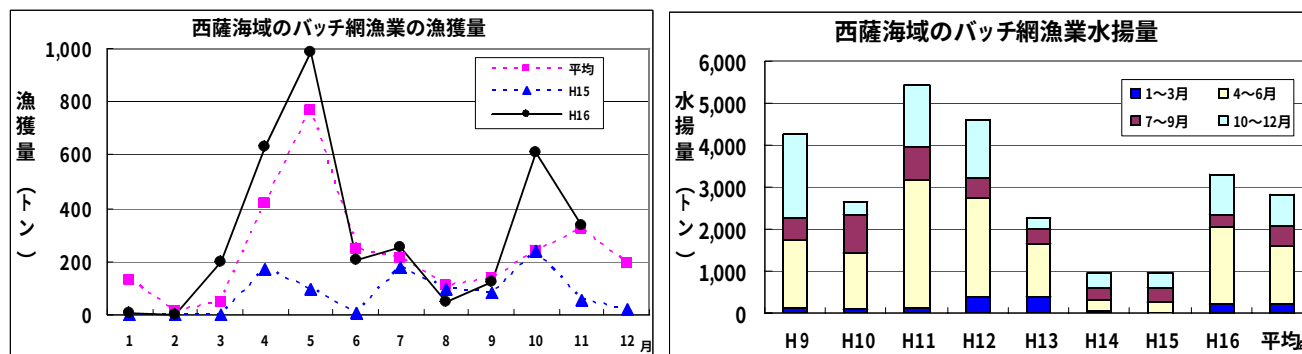


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4漁協計)

※平年値は過去5年(平成11～15年)の平均値、平成16年11月までの水揚げ量を使用。

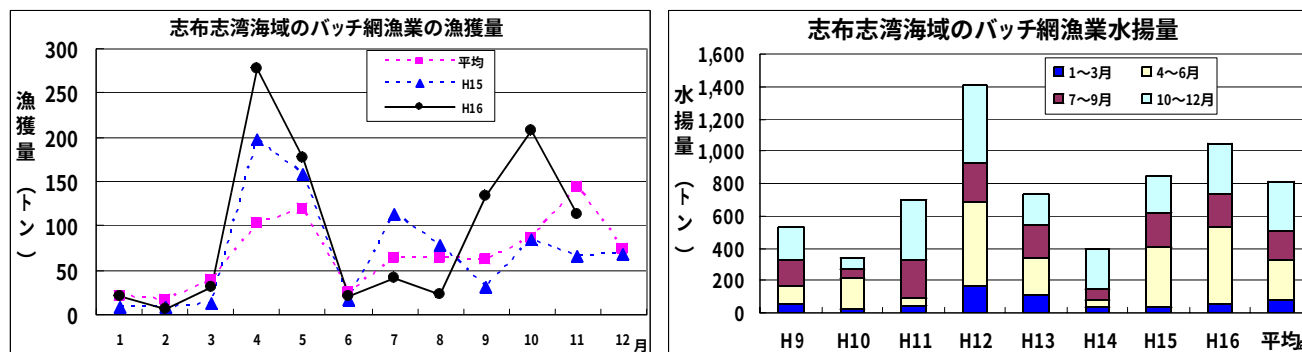


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

※平年値は過去5年(平成11～15年)の平均値、平成16年11月までの水揚げ量を使用。